



吉城高校 1 日入学が行われました。

10月5日 飛騨地区中学3年生の一日入学が行われました。飛騨地区内の中学生 総勢 132 名が本校に足を運んでくれました。ありがとうございました。来年度新学期にお会いできることを楽しみにしています!!!



10/12 (水) 秋の球技大会開催しました。

男子：ドッジボール・バドミントン・バレーボール、女子：ドッジボール・卓球・バレーボール
各クラスで写真コンテスト撮影の後、それぞれの種目会場で熱い戦いが繰り広げられました。





地域課題解決型キャリア教育「吉高地域キラメキプロジェクト」

YCK PROJECT REPORT

地域をフィールドに多様な人とのつながりが価値ある学びをつくる

第6号

10月26日

2022

発行

YCKプロジェクト 課外活動プログラム⑫ 「飛騨の先輩に学ぶ～書～」を実施しました！

「書道家 茂住菁邨氏 ワークショップ」

◆日 時：令和4年7月16日（土）

◆場 所：飛騨市美術館

◆講 師：書家 茂住菁邨 様

◆参加者：1年生（6名）

新元号「令和」を揮毫（きごう）された茂住菁邨氏は、本校がある飛騨市古川町のご出身です。

書展「茂住菁邨 書展一言霊の響」が、フランス・パリ、東京・銀座、高山市に続き、飛騨市において開催されています。そのお忙しい中、地域の高校生対象にワークショップを開いていただき、書の魅力やご自身が大切にされていることなどを熱くお話しいただきました。



ギャラリートークでは、6名の生徒のために、展示された数多くの作品について、先生ご自身から一つ一つ詳しく解説していただきました。

そして、ワークショップでは、各自が事前に考えてきた文字をいよいよ揮毫します。まず初めに、筆の持ち方、文字を書く時の強弱、速さなどの基礎から教えていただきました。特に、“お手本通り”に書くのではなく、丁寧に心を込めて、“自分の思う通り”に筆を運ぶことの大切さを伝えていただきました。

生徒たちは、授業の書道と比べて、緊張した様子でしたが、筆の持ち方や角度など、細かいところまで集中を切らず書に向かっていました。その際、筆を持つ手はもちろん、反対の手を遊ばせないようにすることが、姿勢を安定させるためには大切だということも教えていただきました。ワークショップを通して、体全体、書に向かう姿勢、そして筆先までが、“揮毫する”ことに必要な要素であることを実感し、書くことで人とつながることを大切にされてきた先生の思いを体現することができました。

このような茂住先生との贅沢な時間と、命が吹き込まれた文字は宝物となりました。また、先生とのご縁でいただいた、“生徒の中でこれから芽吹いていくもの”を大切に育てていきたいと思えます。本当にありがとうございました。

生徒のワークシートから、「ワークショップでの印象」を抜粋しました。

先輩の“書”に向かう姿・生き方から新しい視点を得た！

1年 男子	1年 女子	1年 女子
- 何かを書くとき、“うまく書こう”とするのではなく、その字にメッセージを乗せて、何かを描くように書くというアドバイスが印象的だった。 - 正しい字の書き方だけでなく、字の成り立ちも大事で学ぶ必要があると思った。	- 書道を9年間続けてきて、お手本を見てひたすら書くことをやってきた。いつもと違うやり方で難しかったが、楽しくできた。 - 一つのことに向かって“何か”をやっていけば、その“何か”は、いつか自分のものになるというお話が印象的だった。	- プロの方に教えていただくことはめったにないことでしたし、茂住先生がどのような考えをもって書いているのか、それをどのように表現しているのかを知れて、よい経験をすることができました。 - 筆の動かし方、速さなど、細かいところを意識して書くことができたのでよかったです。

